

静岡県 御前崎市



新野地区 学び歩きマップ



指定文化財HP



所在地地図



学び歩きマップHP

新野の由来

新野地区では、約5000年から約3000年前の縄文時代の中ごろから終わりころにかけて作られた磨製石斧(みがいて仕上げられた石の斧)が、新野原や中尾八幡宮の裏付近から発見されていることから、縄文時代から人が居住していたことが推定される。

新野という地名の由来は定かではないが、平安時代中期(931~938年(承平年間))に作られた事典である「和名類聚抄」に、城前郡11郷の一つとし、朝夷(朝比奈)とともに「新野」の地名をみることができる。

お問い合わせ

■御前崎市役所 社会教育課 御前崎市池新田 5585 TEL.0537-29-8735
 ■新野地区センター 御前崎市新野 789-1 TEL.0537-86-2024

2024年3月現在 第3版

1 天ヶ谷の城平(あまがやのしろひら)

MAP A-3



この山城跡は、牧之原台地が菊川市高橋と新野天ヶ谷地区に張り出した尾根上にある。南北2つの曲輪で構成された城郭で、北の曲輪は土塁で囲まれ、西に堀切・横堀を見ることができる。南の曲輪には、虎口や堀切が確認できる。高天神城の攻防戦の頃、武田軍が手を入れたものと推定される。城の北に直径約36mの円墳「天ヶ谷古墳」が隣接している。

2 新野左馬助公墓所・左馬武神社(にいのさまのすけはかしよ・さまたけじんじや)

MAP B-3



新野郷の領主・新野左馬助親矩公は、桶狭間の戦い(1560年)の後、妹が嫁いだ井伊家が今川氏真への謀反の疑いで滅亡の危機になった時、井伊家嫡男の虎松(後の直政)を命に代えて救おうとした「義に厚く情け深い武将」である。

その墓所でもある左馬武神社には五輪塔が祀られ、居城とされる舟ヶ谷の城山を一望できる場所にある。幕末には井伊家子孫で大老・井伊直弼が墓参りを望んだといわれる。右上は、新野左馬助公親矩をイメージした「光山房」作の版画。

3 篠ヶ谷観音堂(しのがやかんのどう)

MAP B-3



篠ヶ谷地区にある観音堂で、堂内には石つくりの聖観音、如意輪観音、地藏菩薩が祀られている。

以前はいつも自由に入ることができ、首が回るようにできている地藏菩薩は子どもが首を回して遊んだという。

聖観音の両袖口には「(左) 為涼山菩提(右) 新野村篠ヶ谷久右エ門」と刻まれている。

如意輪観音は舟形二首半跏像で、1826年(文政9年)に造られた。聖観音と如意輪観音の着衣の部分に赤い彩色の跡が残っている。

4 舟ヶ谷の城山(ふながやのしろやま)

MAP C-3



この山城は、牧之原台地が新野の中心部に張り出した先端部に位置し、新野左馬助公の居城と伝えられている。かつては八幡平の城と尾根で連なっていて、本曲輪は土塁を構え、腰曲輪、横堀、堀切などで防備を固めるなど、見事な遺構があった。大規模農道工事などで、現在本曲輪の跡は残っていないが、大きな堀切は、そのころの面影を残している。

5 幡室古墳(はたむろこふん)と幡室神社(はたむろじんじや)

MAP B-4



この古墳は、1667年(寛文7年)に鎮座した幡室神社の境内に位置する直径が27.5mの「造り出し付き円墳」。ここからは須恵器の大がめが出土した。このかめの製造年代から、古墳が造られた時期は5世紀末時から6世紀初頭と推定される。

幡室神社は、古墳の丘陵上に建てられているため、古墳の埋葬施設の大半が消失しているが、社殿北側には一部が残存している可能性がある。

6 釜原城跡(かまっぱらじょうあと)

MAP A-4



この城跡は、新野中尾・山田ヶ谷と菊川市の佐栗谷にまたがる丘陵部に築かれている。小規模な縦に長い曲輪の配置で、天然の急な崖をうまく利用している。

この城に関する記録として、「正道寺縁由記」には、元寇・建武期(1331年~1336年)の戦いで落城したことが記されている。

現在みられる構造は戦国期のもので、武田・徳川の攻防戦の時、古くからあった城を再利用したものと思われる。城のふもとには「中尾殿ノ谷遺跡」が確認され、鎌倉時代の墨書きがある山茶碗などが出土しており、城主の居館跡との伝承がある。今は遺構を確認することはできない。

7 想慈院(そうじいん)と新野水のめぐみ公園

MAP D-3



想慈院は1574年(天正2年)に年叟永寿が開創した曹洞宗の寺院である。年叟永寿は元龜年間(1570年~1573年)に朝比奈の閑田8世の住職として迎えられた。武田・徳川の戦いにより一時他へ避難して戻ってきたところ、新野篠ヶ谷の信徒に迎えられこの地に開創した。

門前の石段は、踏む面が前方に向かって斜面になっている「馬返し」と呼ばれるものである。

新野水のめぐみ公園は想慈院の前から篠ヶ谷調整池の間に作られた公園で、上部はビオトープ、下部は芝生が広がる谷あいの静かな公園である。

8 八幡平の城(はちまんたいらのしろ)

MAP D-3



この山城跡は、舟ヶ谷の城山から東につながる場所に位置している。本曲輪「八幡平」は東西約40m、南北約100mの広さがある。二の曲輪は自然地形をそのまま利用し、東西に横堀、堀切を備えている。

山頂部は平坦地で、二重切堀や横堀を多用した縄張りから、武田氏の築城または改築ではないかと考えられている。

9 新野原の馬頭観音(にいはらのばとうかんのん)

MAP E-1



この馬頭観音は舟形光背で三面八臂憤怒相(3つの顔と8本の腕を持ち、恐ろしい顔)である。市内では、一面二臂像(1つの顔と2本の腕)は各所に見られるが、三面八臂は珍しい石造である。

10 塩買坂(しょうかいざか)と武田の陣場跡

MAP D-1



菊川市にまたがる塩買坂は、相良からの旧信州街道(塩の道・秋葉路)の一部である。塩買坂とは塩の取引に由来した地名ともいわれる。性海坂ともいわれる。

1671年(元龜2年)には、高天神攻めをねらう武田信玄が陣を張り、また、1574年(天正2年)には武田勝頼も布陣した。この坂からは、西に高天神城が見渡せるため、戦略上最適地であったといえる。

11 医者墓様(いしゃばかさま)

MAP B-2



本間謙吾を祀るお堂。本間堂とも呼ばれる。金沢出身の謙吾は医者を目指して修行の途上、病に倒れた。新野村の医師・松下良伯貞国はその不遇を哀れみ、家を与え治療に努めたがその効果もなく1861年(万延2年)没した。霊験あらたかなお堂として知られ、以前は緑日に多くの善男善女でにぎわった。

●塩ノ段鉾泉(しおのだんこうせん)

MAP D-4



温泉法上の「温泉」である可能性があるとの所見が得られた鉾泉。

「新野村誌」(1913年編纂)によると、1886年(明治19年)に内務省衛生局が行った検査により、固形物を多く含み、特に塩化ナトリウムを多く含んでいることが分かった。そのため、当時、温泉の保養施設をつくることも構想された。

2015年(平成27年)に検査をしたところ、塩化物イオンなどの溶存物質が多量に検出された。今でも、ブクブクと泡が出ている。

●新野カカシ祭り

MAP B-4



まちづくりグループ「新野未来塾」を中心に、平成13年度より毎年10月に新野川沿いの歩道を会場に盛大に開催されている。市内外の個人・団体から出品され、期間中は大勢の見学者と思いいに作られたユニークなカカシで賑わう。

●養寿丸と高野長英(ようじゅぐんとたかのちやうえい)

MAP D-1

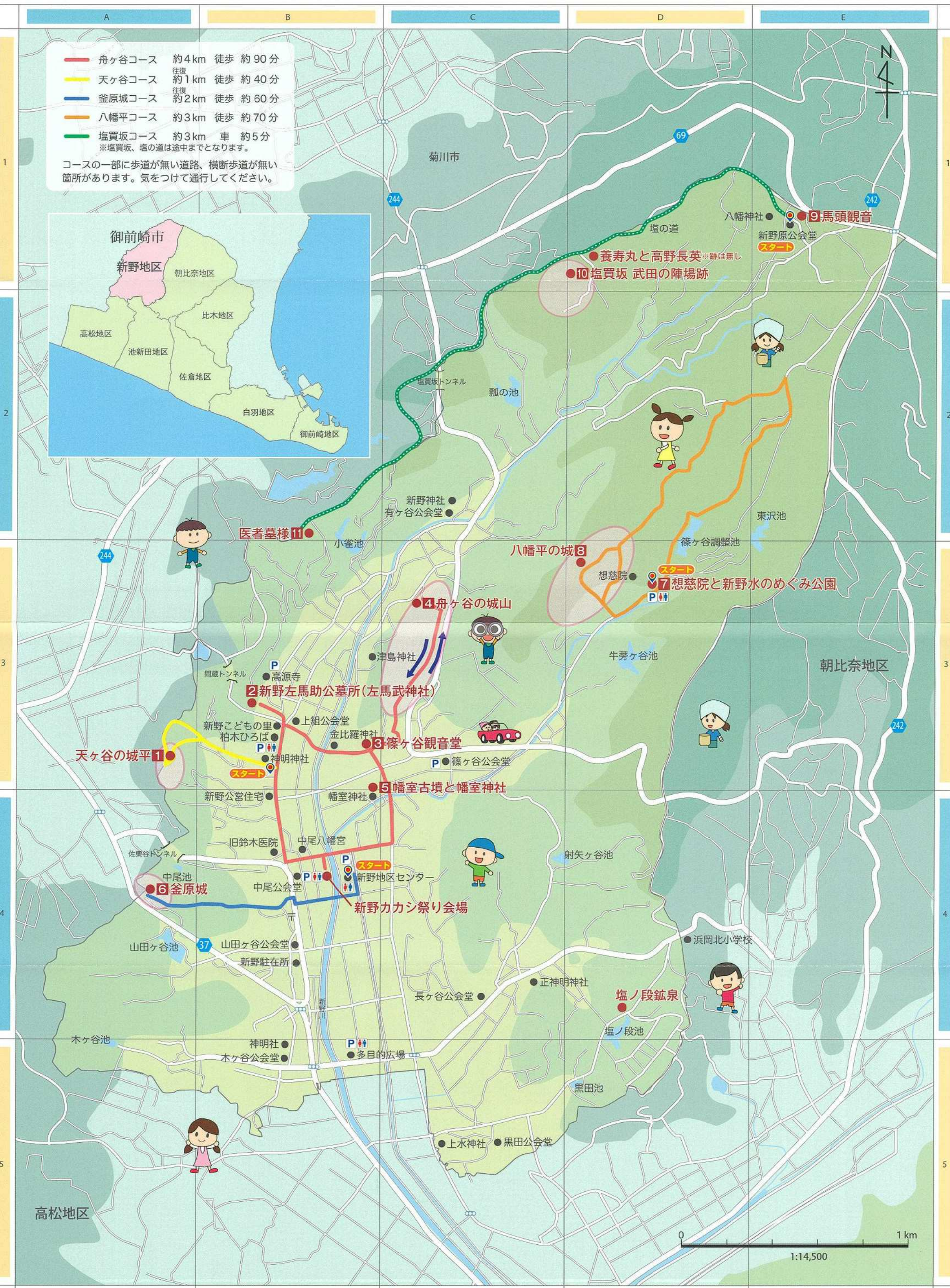


江戸時代の後期、塩買坂の茶店夫婦が一人の旅人を看病し、お礼に処方箋を預かった。その処方箋をもとに薬をつくり病人に与えると、長年苦しんでいた病気が快復した。噂は伝わり遠くからも求められるほどになった。

明治時代に入り薬売りの許可を取り、「養寿丸」として全国に販売された。旅人は、幕末の高名な蘭学者・高野長英だったと伝えられている。

- 舟ヶ谷コース 約4km 徒歩 約90分
往復
- 天ヶ谷コース 約1km 徒歩 約40分
往復
- 釜原城コース 約2km 徒歩 約60分
往復
- 八幡平コース 約3km 徒歩 約70分
- 塩買坂コース 約3km 車 約5分
※塩買坂、塩の道は途中までとなります。

コースの一部に歩道が無い道路、横断歩道が無い箇所があります。気をつけて通行してください。



0 1 km
1:14,500